

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成28年5月19日(2016.5.19)

【公開番号】特開2013-216886(P2013-216886A)

【公開日】平成25年10月24日(2013.10.24)

【年通号数】公開・登録公報2013-058

【出願番号】特願2013-64060(P2013-64060)

【国際特許分類】

C 0 9 D 11/00 (2014.01)

B 4 1 J 2/01 (2006.01)

B 4 1 M 5/00 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 11/00

B 4 1 J 3/04 1 0 1 Y

B 4 1 M 5/00 E

【手続補正書】

【提出日】平成28年3月22日(2016.3.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

硬化性ワックスと、

1種類以上のアクリレートモノマーと、

末端がイソソルビドで保護され、イソソルビドにより末端がエステル保護されたポリアミド樹脂である、アミドゲル化剤と、

光開始剤とを含む、硬化性固体インク。

【請求項2】

前記硬化性ワックスが、前記硬化性固体インク中に、前記硬化性固体インクの合計重量の0.1~30重量%の量で存在する、請求項1に記載の硬化性固体インク。

【請求項3】

前記1種類以上のモノマーが、前記硬化性固体インク中に、前記硬化性固体インクの合計重量の50~95重量%の量で存在する、請求項1に記載の硬化性固体インク。

【請求項4】

前記アミドゲル化剤が、前記硬化性固体インク中に、前記硬化性固体インクの合計重量の1~30重量%の量で存在する、請求項1に記載の硬化性固体インク。

【請求項5】

さらに着色剤を含み、該着色剤が、前記硬化性固体インク中に、前記硬化性固体インクの合計重量の0.1~10重量%の量で存在する、請求項1に記載の硬化性固体インク。

【請求項6】

前記光開始剤が、前記硬化性固体インク中に、前記硬化性固体インクの合計重量の0.5~15重量%の量で存在する、請求項1に記載の硬化性固体インク。

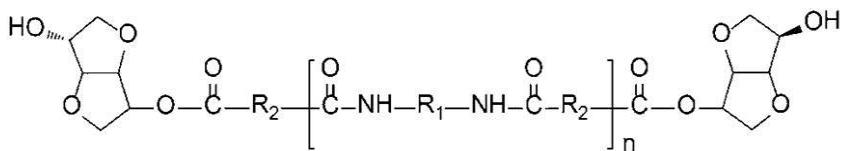
【請求項7】

非硬化性ワックス成分であるエトキシル化オクチルフェノール誘導体をさらに含む、請求項1に記載の硬化性固体インク。

【請求項8】

前記アミドゲル化剤が、以下の式

【化4】



の化合物であり、

式中、nは1～10であり、R<sub>1</sub>が、

(i) 炭素原子を1～12個含むアルキレン基、

(ii) 炭素原子を6～15個含むアリーレン基、

(iii) 炭素原子を7～32個含むアリールアルキレン基、および

(iv) 炭素原子を7～32個含むアルキルアリーレン基

からなる群から選択され、

R<sub>2</sub>が、

(i) 炭素原子を1～54個含むアルキレン基、

(ii) 炭素原子を6～15個含むアリーレン基、

(iii) 炭素原子を7～32個含むアリールアルキレン基、および

(iv) 炭素原子を7～32個含むアルキルアリーレン基

からなる群から選択される、請求項1に記載の硬化性固体インク。

【請求項9】

R<sub>1</sub>またはR<sub>2</sub>の前記アルキレン基は、直鎖および分枝鎖、飽和および不飽和、環状および非環状を含む二価の脂肪族基またはアルキル基であり、前記アルキレン基は、酸素、窒素、硫黄、ケイ素、リンおよびホウ素からなる群から選択されるヘテロ原子を含んでいてもよい、請求項8に記載の硬化性固体インク。

—